

事業所名

児童発達支援Tendresse

## 支援プログラム

作成日

令和7 年

9月

1日

法人（事業所）理念		子どもと子どもを取り巻く全ての人たちの幸せと笑顔を守りたい					
支援方針		成功体験や褒められる経験を積み重ねることによって、子どもたちの自信を引き出し、自己肯定感を高め、子どもたちの『生きる力』を育んでいく					
営業時間		12 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり ※お迎えのみ
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	保育士による日常のきめ細かな全身状態のチェック、その他日常生活の援助や練習、トイレトレーニング等を実施し、ADL(日常生活動作)・IADL(手段的日常生活動作)の向上を目指す。生活動作に必要な手順を視覚的に提示し、繰り返し取り組むことで安心して習慣化し、自立に繋げていく。 個人の発達段階に合った介入を行い、成長発達を促す。					
	運動・感覚	毎日のサークル運動・リトミック等の実施により、運動神経、感覚神経、脳中枢神経の発達を促す。 遊び等を通して、保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用し、感覚統合へと繋げていく。 個人の発達段階に合った介入を行い、成長発達を促す。					
	認知・行動	物や空間、数量、形の大きさ、重さ、色の違い、時間等の概念形成の習得を目指す。 周囲の環境から情報を取得し、必要な情報を選択して行動に繋げる一連の認知過程の発達を支援する。 個人の発達段階に合った介入を行い、成長発達を促す。					
	言語 コミュニケーション	多様なコミュニケーション手段を活用して、意思の伝達ができるように支援する。 自己表現が他者に伝わる喜びを知り、その経験を重ねていくことで、他者に意思を伝えたいという欲求や意欲を高めていく。 個人の発達段階に合った介入を行い、成長発達を促す。					
	人間関係 社会性	支援員との愛着関係を育み、安心した環境のなかで楽しみながら「できること」を増やしていく。 SST実施により、挨拶やマナー、気持ちのコントロール等、社会生活を営んでいくうえで必要なスキルを身に付ける。 個人の発達段階に合った介入を行い、成長発達を促す。					
家族支援		家族等に対して相談援助を行い、障害特性への理解や養育力向上に繋げる。 支援場面の観察及び参加する機会や、専門的な知識を習得する場や保護者同士が情報共有できる場を提供する。		移行支援	就園先等における本児の課題や具体的な関わり方について共有を図る。		
地域支援・地域連携		他の通所支援事業所との交流や情報交換を行う。 さかい障がい児放課後連絡会への参加。		職員の質の向上	月1回以上のスキルアップ研修により、職員の支援技術の向上を促す。 あい・さかい・センター養成研修への参加。		
主な行事等		月1回土曜日に保護者交流イベントを開催。 週1回クッキングを開催。					